



## ●全国大会「名古屋」22 前納メ切

5月25日（水）が前納メ切です。  
早めの参加手続きをお願いいたします。  
登壇者はこの日までに手続きが必要です。

新たに3つ目のビジュアルを公開しました。渡辺真由子氏（ジュエリーデザイナー、学会員）のデザインで広報のフェーズに合わせて背景が3段階で変化したものです。

◆会期：2022年  
6/25（土）・26（日）

◆会場：  
ハイブリッド開催  
〈現地参加〉

椋山女学園大学  
星が丘キャンパス  
〈オンライン参加〉

Zoom 利用

1日目と2日目を異なる参加形態にもできます。現地では、大会グッズ（安全アメニティ）も準備しています。

◆参加申込：  
<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/#sankatouroku>

◆大会情報：  
<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/>  
（全国大会実行委員会・広報）



## 源氏物語の色-35「若菜上」-その2

光源氏四十一歳の三月末、邸宅である六条院の庭での蹴鞠の場面がある。

桜の直衣に指貫袴と当時の男性の貴族の普段着姿で蹴鞠に参加している二十歳の夕霧。その見た目は誰よりも若く美しいと書かれている。

冬（十月から三月）の直衣は裕で表白、裏二藍（紅と藍の掛け合わせ）。若年ほど二藍の紅の比率が多く“桜がさね”となる。

この後、蹴鞠に疲れ、夕霧が柏木と共に座って休息をしていると、猫が走り出て開いた御簾の隙間に袿（うちき）姿の女性を目にする。光源氏の正妻、女三の宮をはじめて目にし、柏木の不義の恋心があおられる。

後の物語が大きく動くきっかけとなる重要な場面である。奥に立つ女三の宮は、紅梅襲であろう、紅色の袿を何枚もまどって、袖口や裾は華やか、その上には桜の細長（高貴な女性の日常着）とある。十五、六歳の女三の宮のあどけなさが残る可愛らしい姿が連想される。

蹴鞠を行う者、光源氏他それを眺める者、女三の宮に仕える女房達、雅な装束の方々の集いに夕明かりと桜の散る花が彩を添える美しい光景が目浮かぶ。（平山和香子）

## ●季語集の中の色名ー6

### ●盛夏の季語

白南風（しろはえ）：梅雨明けの明るさの中に吹く南風。

青嵐（あおあらし）：青葉の中をふく夏のはげしい風。

緑蔭（りよくいん）：青々とした樹蔭。

青嶺（あおね）：青々とした夏の嶺。

青田（あおだ）：稲の緑が程よく伸びた田。

青蚊帳（あおがや）：青くみづみづしいみどり色の蚊帳。

青簾（あおすだれ）：青竹で編んだ簾。

白地（しろじ）：白地緋又は白地浴衣などをいう。

白服（しろふく）：男女の白麻服。

白靴（しろぐつ）：白革、ズックなど軽快な夏の靴。

冷し紅茶（ひやしこうちゃ）：冷蔵庫で冷やした紅茶。

白玉（しらたま）：粳米の粉を水で練り、丸めて茹で、氷をそえて砂糖をかけて食べる。

金玉糖（きんぎょくとう）：寒天に甘味をつけた菓子。

青葉（あおば）：若葉の更に濃くなったもの。青葉闇。

（盛夏続く）

（永田泰弘）